

3201 190

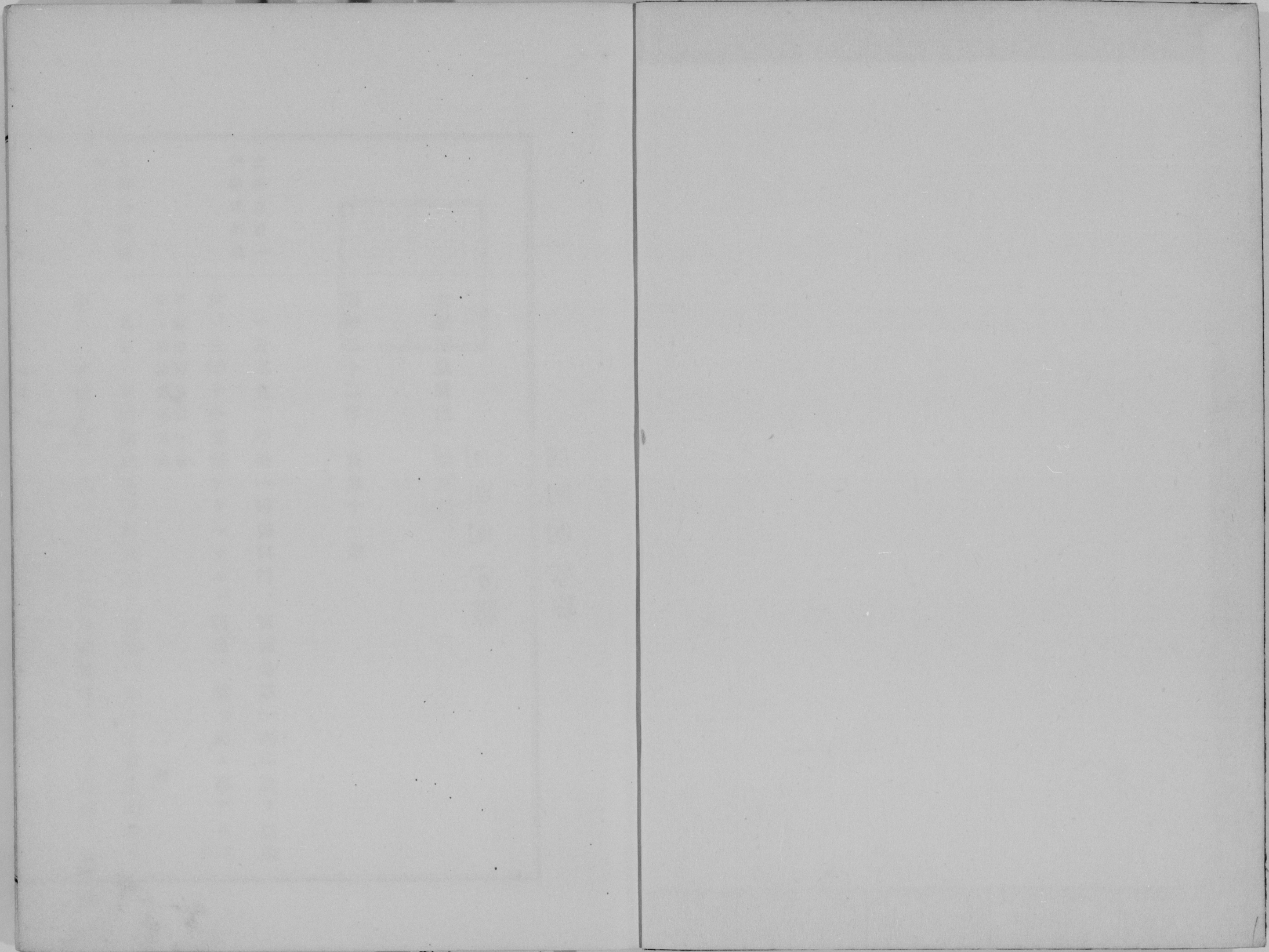
大正天皇實錄 卷五

7 8 9 7 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

圖書寮	
編號	64047
冊數	97
品號	秘 4

葉奈木
ニハ非ワル再調
植指トアルモ

3201 191



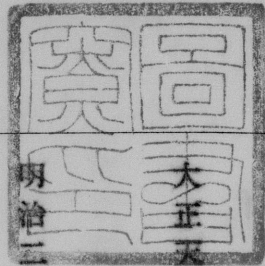
植指トアルヒ

ニハ非ヤル中再調

葉奈木[®] 

葉奈木

3201 192



大正天皇實錄 卷五

明治三十二年 寶算十一歲

南豊島第一御料地御成

上野動物園御成

一月二日、午後一時御出門、南豊島第一御料地ヲ御遊歩、三時十分還宮アラセラル。爾後、屢々此ノ事アリ。

明宮勅啓日記・官報・高辻修長日記

八日、午後御妹昌子内親王ヲ過訪、夫ヨリ青山御所ヲ經テ上野動物園ニ成ラセラレ園内御巡覽アリ。歸途、銀

明治二十二年一月

植拍トアルモ

ニハ非サルヤ再調

葉奈木

天皇・皇后
ノ新皇居移
御ヲ祝シ給
フ

座ヲ廻リテ三時四十分遷宮アラセラル。爾後、動物園・博物館。東京教育博物館等ヲ屢々御巡覽アリ。明宮勤務日記

十一日、新皇居竣工シ、天皇・皇后御同列ニテ移御アラセラルルヲ以テ、學習院ヲ御休學アラセラレ、晝餐ニ祝膳ヲ供進セシム。尋イデ翌十二日參内、遷幸ノ御祝詞ヲ奏シ、五種交肴壹折ヲ進獻アラセラル。明宮勤務日記・官報

是ノ日、午後ヨリ澁谷御料地ニ成ラセラレ、歸途芝公園ニ御立寄アリ。高辻修長日記・官報

圖書寮

熱海御遊幸

十二日、午後二時參内、明十三日ヨリ熱海ニ御遊幸アルベキヲ以テ天皇・皇后ニ謁シ、御請暇ヲ奏啓、尋イデ青山御所ニ參候同ジク皇太后ニ啓セラルル處アリ。高辻修長日記

十三日、客歲八月御靜養ノ爲メ暑ヲ箱根塔ノ澤ニ避ケ給ヒシガ、其ノ效果顯著ナリシヲ以テ、御教養主任子爵曾我祐準、今ヤ寒ヲ靜岡縣下熱海ノ地ニ避ケシメ奉ラン事ヲ奏ス。天皇直ニ聽許アラセラル。仍リテ是ノ日午前八時御豫定ノ如ク御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、午後四時二十五分熱海村加茂第一御料地ニ安著アラセラ

植拍トアルモ
ニハ非ヤル再調
葉奈木ノネナリ

ル。其ノ間ノ御動靜ヲ表示スレバ概ネ左ノ如シ。

午前八時

御出門 御馬車

御小休

新橋停車場

此ノ間天皇。皇后。皇太后ヨリノ御使ヲ始メ、御見送りノ邦芳王。恒久王、奉送ノ宮内高等官以下華族。學習院生徒等凡ソ七八十名ニ謁ヲ賜フ。

午前八時三十五分

同所御發車 汽車

同 十時五十五分

國府津御著

御小休

同停車場

午前十一時五分

同所御立 鐵道馬車

御遊留中ノ御動靜

御晝休

小田原驛片岡永左衛門

此ノ家ハ昨年モ御立寄アリシ處ナリ。

午後零時三十分

同所御立 人力車

御小休

江ノ浦村富士屋増太郎

御小休

吉濱村橋本三平

此ノ間奉迎ノ靜岡縣知事關口隆吉ニ謁ヲ賜フ。

午後四時二十五分

熱海村加茂第一御料地御安著

是ヨリ此ノ地ニ泊リ給フ事四十日ニ及ブ。抑々今回ノ御轉地ハ御遊幸ヲ主トナスヲ以テ、自ラ塔ノ澤御滞在時ト異ルモノアリ。即チ日曜。祝日ヲ除ク外學習院ニ於ケ

植拍トアルモ

ニハ非ルヤ再調

葉奈木ノネリ

ルト同様ノ學業ヲ修メサセラル。從ヒテ毎時間ニハ鈴ヲ振ラシメ、規律ヲ正シテ御學友ト共ニ講義ヲ聽キ給フ。御學業ハ專ラ學習院教授湯本武比古之ヲ奉仕ス。二月五日ヨリ三日間算術。作文。唱歌。修身。讀書。書取。實物。習字等諸課目ニ亙リテ試験アリ。隨員ノ明宮御用掛子爵高辻修長ガ日記ニ、

。儲君斯クノ如ク

學業ニ勵ミ給フヲ以テ、平日ハ概ネ午後三時頃ヨリ錦浦。横磯。觀魚岬等ノ海邊ヲ、或ハ當地第三御料地園ヲ御遊邊アリ、其ノ他近傍ヲ散歩アラセラルル事尠カラズ。又

御遊ニハ屢、山野ニ銃獵ヲ試ミ海濱ニ引網ヲ行ハシメテ。次ニ日曜日ハ御就學無ク御遊歩等ノ幾分遠方ニ、取ハ名勝ノ地ニ出デサセラル。即チ二月三日ノ如キハ階石六百數十段ヲ有スルヲ以テ名アル伊豆山ニ遊ヒ給ヒ、或ハ今呂神社邊ヲ巡遊アツセラル。斯クテ規律正シキ御起居ノ内ニ益々御健全ニ發育アツセラル。今試ミニ御體量ヲ示セハ左ノ如シ。

本年一月九日	五頁六百匁
同 廿九日	五頁八百八十匁
二月十二日	五頁九百三十匁

植拍トアルモ

ニハ非ヤル再調

葉奈木ノネナリ

ルト同様ノ學業ヲ修メサセラル。從ヒテ毎時間ニハ鈴ヲ振ラシメ、規律ヲ正シテ御學友ト共ニ講義ヲ聽キ給フ。御學業ハ專ラ學習院教授湯本武比古之ヲ奉仕ス。二月五日ヨリ三日間算術。作文。唱歌。修身。讀書。書取。實物。習字等諸課目ニ亘リテ試験アリ。隨員ノ明宮御用掛子爵高辻修長ガ日記ニ、

儲君斯クノ如ク

學業ニ勵ミ給フヲ以テ、平日ハ概ネ午後三時頃ヨリ錦浦。横磯。觀魚岬等ノ海邊ヲ、或ハ當地第三御料地^{梅園}ヲ御遊邊アリ、其ノ他近傍ヲ散歩アラセラルル事尠カラズ。又

御慰ニハ屢、山野ニ銃獵ヲ試ミ海濱ニ引網ヲ行ハシメテ。次ニ日曜日ハ御就學無ク御遊歩等ハ幾分遠方ニ、取ハ名勝ノ地ニ出デサセラル。即チ二月三日ノ如キハ階石ハ百數十段ヲ有スルヲ以テ名アル伊豆山ニ遊ヒ給ヒ、或ハ今宮神社邊ヲ巡遊アラセラル。斯クテ規律正シキ御起居ノ内ニ益々御健全ニ發育アラセラル。今試ミニ御體量ヲ示セハ左ノ如シ。

本年一月九日 五頁六百匁

同 廿九日 五頁八百八十匁

二月十二日 五頁九百三十匁

天皇・皇后・皇太后侍臣ヲ遣シ給フ

二月廿二日

六頁五頁

此ノ間、大皇、儲君ノ御狀況ヲ軫念アラセラルル事深ク、時々、侍臣ヲ熱海ノ地ニ遣シ、或ハ物ヲ賜ヒ、或ハ御近況ヲ奏セシメ、或ハ樞密顧問官元田水字ヲ遣シ、學業ノ様ヲ覽セシメラル。皇后モ亦御懸念アラセラルル事厚ク、偶々温泉ト云フ勅題ニテ

出湯くむ熱海のことのあた、かに

小松も千代の色やそふらん

ノ如キ御作アリ。更ニ大皇ガ侍臣ヲ遣シ給フ時ハ物ヲ進メラルルヲ常トス。猶ホ皇太后モ時々御近況ヲ問ハセフ

圖書寮

御歸京

花御殿ニ移ラセラル

ル。儲君モ亦屢々御書ヲ奉リテ日々ノ狀況ヲ奏啓アリ。或ハ便アル毎ニ物ヲ進獻シ給フ。

會我御教養主任、御避寒ノ效果顯著ナルニ鑑ミ私ニ御滞在期間ノ延長ヲ奏請セシガ、勅許アラセラレザリシヲ以テ、御豫定ノ如ク二月二十三日東京ニ還宮アリ。即チ午前八時加茂第一御料地ヲ御出門、午後五時二十分明宮新御殿ニ安著アラセラル。其ノ行概ネ御成ノ時ノ如シ。新御殿ハ舊假皇居タリシ赤坂離宮内ニアリ。御沙汰ヲ以テ花御殿ト稱シ、儲君ノ御住居タラシメ給フ。今ヤ儲君六週間ニ垂ントスル御淹留ヨリ御機嫌克ク還宮、且ツ花

植拍トアルモニハ非ヤ再調葉奈木

天皇・皇后
皇太后侍臣
ヲ遣シ給フ

二月廿二日

六頁五頁

此ノ間、天皇、儲君ノ御狀況ヲ軫念アラセラルル事深ク、時々、侍臣ヲ熱海ノ地ニ遣シ、或ハ物ヲ賜ヒ、或ハ御近況ヲ奏セシメ、或ハ樞密顧問官元田永孚ヲ遣シ、學業ノ棟ヲ覽セシメラル。皇后モ亦御懸念アラセラルル事厚ク、偶々温泉ト云フ勅題ニテ

出湯くむ熱海のことのあた、かに

小松も千代の色やそふらん

ノ如キ御作アリ。更ニ天皇カ侍臣ヲ遣シ給フ時ハ物ヲ進メラルラ常トス。猶ホ皇太后モ時々御近況ヲ問ハセフ

圖書寮

御歸京

花御殿ニ移
ラセラル

ル。儲君モ亦屢々御書ヲ奉リテ日々ノ狀況ヲ奏啓アリ。或ハ便アル毎ニ物ヲ進獻シ給フ。

會我御教養主任、御避寒ノ效果顯著ナルニ鑑ミ私ニ御滞在期間ノ延長ヲ奏請セシガ、勅許アラセラレザリシヲ以テ、御豫定ノ如ク二月二十三日東京ニ還宮アリ。即チ午前八時加茂第一御料地ヲ御出門、午後五時二十分明宮新御殿ニ安著アラセラル。其ノ行概ネ御成ノ時ノ如シ。新御殿ハ舊假皇居タリシ赤坂離宮内ニアリ。御沙汰ヲ以テ花御殿ト稱シ、儲君ノ御住居タラシメ給フ。今ヤ儲君六週間ニ垂ントスル御淹留ヨリ御機嫌克ク還宮、且ツ花

御殿ニ移徙アラセラレタルヲ祝シ給ヒテ、天皇。皇后。皇太后ヨリ交魚壹折ヲ拜領、儲君モ亦物ヲ進獻アラセラ

隨員

猶ホ御避寒ニ當リ隨行ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ、明宮御教養主任子爵曾我祐準。明宮御用掛子爵高辻修長。明宮御用掛學習院教授湯本武比古。明宮勤務竹屋光富。同勘解由小路資承。同子爵小笠原長育。同子爵京極高德。同子爵大久保忠順。同子爵大宮以季。嘉仁親王殿下附武官長瀬良行。同香宗我部順。同公爵鷹司照通。侍醫岡玄卿。侍醫局勤務加藤照麿。御學友高崎益彦。同一柳剛等

圖書寮

憲法發布並
ビニ皇宣典
範御治定ニ
當リ祝電ヲ
奉ラセラル

ナリ。明宮勤務日記。明宮御殿詰局日記。行啓録。高辻修長日記。熱海御旅行書類綴込。皇親錄。侍從職官報。

二月十一日、紀元節ノ佳辰ヲトシ、憲法發布並ビニ皇宣典範御治定ノ典儀ヲ行ハセ給フヲ以テ、熱海御避寒地ヨリ天皇。皇后。皇太后ニ電報ニテ祝詞ヲ奏啓アラセラレ、且ツ隨員等ノ拜賀ヲ受ケ、祝酒ヲ賜フ。高辻修長日記
二十三日、明宮御教養主任子爵曾我祐準、花御殿御移轉ヲ機トシ職員ヲ戒メ、奉仕ノ心得十一箇條ヲ示シテ曰ク、

一、自今常侍奉仕ノ儀ハ土曜日。日曜日ヲ除クノ外總テ

葉奈木ノ事
三ハ非ヤル再調
植指トアルモ

男子（勤務將校）ニテ可相勤旨被仰出候事

但土。日兩曜ノ夜ハ女官侍寢ノ事

一、男子侍寢ノ節奏任女官ハ毎朝御目覺後及夜分御入寢前御機嫌可相何事

一、女官侍寢ノ節ト雖モ御體操ハ總テ男子侍寢ノ節ノ通り被爲遊候事

一、毎朝冷水ニテ御拭ハ御衛生上必要ノ件ニ付必ズ被爲遊ノ事

但毎朝侍醫先ヅ御寢所ニ於テ拜診シ且ツ御拭中ハ其場所ニ侍スベキ事

被仰付

一、自今御膳部ハ御衛生ノ爲メ侍醫ノ監視ヲ以テ大膳職

ニ於テ調理供進ノ事

一、御陪膳ハ總テ勤務將校ニテ相勤ムベキ事

但大膳職ヨリ供進所へ調進シ内舍人御前マデ傳送シ勤務將校之ヲ供進ノ事

一、御服ノ出納ハ總テ男子ニテ取扱ノ事

但御和服ノ新調等ハ女官ニテ取扱ヒ當季ノ分ハ男子へ受取置ベキ事

一、御寢具ハ總テ男子ニテ取扱ノ事

但絹御夜具等新調ハ女官ニテ擔當ノ事

摺拍トアルモ

三ハ非ヤル再調

葉奈木ノ

男子（勤務將校）ニテ可相勤旨被仰出候事

但土。日兩曜ノ夜ハ女官侍寢ノ事

一、男子侍寢ノ節奏任女官ハ毎朝御目覺後及夜分御入寢前御機嫌可相伺事

一、女官侍寢ノ節ト雖モ御體操ハ總テ男子侍寢ノ節ノ通り被爲遊候事

一、毎朝冷水ニテ御拭ハ御衛生上必要ノ件ニ付必ズ被爲遊ノ事

但毎朝侍醫先ヅ御寢所ニ於テ拜診シ且ツ御拭中ハ其場所ニ侍スベキ事

圖書寮

被仰付

一、自今御膳部ハ御衛生ノ爲メ侍醫ノ監視ヲ以テ大膳職

ニ於テ調理供進ノ事

一、御陪膳ハ總テ勤務將校ニテ相勤ムベキ事

但大膳職ヨリ供進所へ調進シ内舍人御前マデ傳送

シ勤務將校之ヲ供進ノ事

一、御服ノ出納ハ總テ男子ニテ取扱ノ事

但御和服ノ新調等ハ女官ニテ取扱ヒ當季ノ分ハ男

子へ受取置ベキ事

一、御寢具ハ總テ男子ニテ取扱ノ事

但絹御夜具等新調ハ女官ニテ擔當ノ事

一、女子參上ノ節ハ女官候所へ通知シ女官之ヲ接待スベキ事

一、献上物之内御飲食物ハ必ズ御用掛ヲ經テ御前へ差出スベキ事

一、毎夜勤務將校侍醫等へ酒肴下賜ノ義ハ自今廢止ノ事ト、鞠育方針ノ大綱ヲ知ルト共ニ、儲君御動靜ノ一端ヲモ拜シ奉ルノ資タルベシ。明宮御用掛日記・高辻修長日記

二十八日、新ニ明宮勤務長ヲ置キ、宮内書記官候爵中山孝胤ヲ之ニ任ズ。明宮御用掛日記・官報・高辻修長日記・總務課遺書

三月六日、從二位中山慶子病ニ依リ願ノ如ク明宮ノ御

明宮勤務長設置

中山慶子辭任ニヨリ物

圖書寮

ヲ賜フ

養育御用ヲ罷メサセラル。慶子ハ候爵中山忠能ノ女ニシテ、天皇ノ生母ナリ。儲君降誕以來忠能ト共ニカヲ黨育ニ盡シ、其ノ動勞渺カラズ。是ヲ以テ金五百圓竝ビニ金燭臺壹對ヲ賜フ。明宮御殿詰日記・高辻修長日記・恩賜錄

十日、午前九時御出門、上野公園御遊歩ノ後、華族會館ニ立寄ラセ給ヒテ^御昼餐アリ。午後ヨリ更ニ動物園等ヲ御巡覽、歸途例ニヨリテ參内、夕景還宮アラセラル。爾後、同館御立寄ノ事度アリ。明宮勤務日記・官報・高辻修長日記

十四日、第一師團歩兵第三聯隊ニ成ラセラレ、教練ヲ御見學、尋イデ兵舍ヲ御巡覽アリ。午後五時十五分還宮

華族會館御立寄

教練竝ビニ兵舍御見學

植木トアルモ
ニハ非サルヲ再調
葉奈木

アラセラル。爾後、屢々諸隊ニ成ラセラレ、演習。教練。銃槍。劍術等ヲ御覽ノコト多シ。表示スレバ左ノ如シ。
明宮勸務日記・官報
辻修長日記・官報

- 三月廿八日 近衛歩兵第三聯隊
- 四月十六日 近衛歩兵第一。第二聯隊
- 同 十七日 近衛砲兵聯隊
- 同 十九日 第一師團輜重兵第一大隊
- 同 廿五日 第一師團砲兵第一聯隊
- 同 廿九日 第一師團歩兵第一聯隊
- 十一月三日 近衛歩兵第一聯隊

圖書寮

小石川植物園御成

陸軍關係諸學校御成

明治二十二年三月

一七

十六日、宮内省雇獨逸國人もいる竝ビニ其ノ妻子ニ賜ヲ賜フ。期滿チテ歸國スルヲ以テナリ。猶ホ宮内書記官長崎省吾ハ通譯ニ當レリ。
明宮勸務日記

十七日、午前十時御出門、恒久王ヲ同車シテ小石川植物園ニ成ラセラレ、園内御遊歩ノ後、晝餐アリ。午後ヨリ近傍ナル有栖川宮ノ巢鴨別荘ヲ過ギ、再ビ植物園ニ立寄ラセ給ヒ、歸途參内、午後五時四十分還宮アラセラル。是ノ後、六月二十一日。十一月三日ニモ亦同園御成ノ事アリ。
明宮勸務日記・官報
辻修長日記・官報

十八日、學習院ノ歸途、始メテ陸軍乘馬學校ヲ御見學、

植物園トアムニハ非ヤル再調
葉奈木ノ子

芝離宮御成

午後四時十分還宮アラセラル。猶ホ三月二十七日。十二月二十六日ニハ陸軍戸山學校ニ、四月二十五日。七月六日ニハ陸軍幼年學校ニ御成アリ。報・高勳務日記・官報

二十日、午前十時芝離宮ニ成ラセラレ、園内御遊歩例ノ如シ。午後四時還宮アラセラル。爾後、御成ノ事屢々アリ。報・高勳務日記・官報

濱離宮御成

二十四日、午後零時三十分御出門、濱離宮ニ成ラセラレ、延邊館ニ於テ御少憩ノ後、摘草等ノ御慰アリ。四時二十分還宮アラセラル。爾後、屢々御成アリ。遊歩、又ハ釣魚。舟遊等ノ御慰アルヲ例トス。報・高勳務日記・官報

圖書寮

御撮影

二十五日、午後一時丸山御寫眞所ニテ御撮影アリ。偶來會ノ御妹昌子内親王ニ御對面ノ後、二時二十分還宮アラセラル。報・高勳務日記

是ノ日、久シク御住居タリシ舊明宮御殿ノ御座所。御車寄。御學問所ヲ始メ候番中山孝麿邸内舊御座所等ヲ寫眞ニ撮ラシメ記念ト爲シ給フ。報・高勳務日記

二十九日、嘉仁親王殿下附陸軍歩兵大佐山本清堅休職ト爲ルヲ以テ銀瓶壹個ヲ賜フ。報・高勳務日記

三十一日、御學友中殊ニ年長タル松浦復。松平恒吉。三島彌八。植松雅道。堀河親清ヲ免ジ、松平武子爵直ヲ

植松トアルモ
ニハ非アルヲ再調
葉奈水

御學友ト爲ス。明宮御用掛日記・恩賜録

四月三日、午前十時御出門、向島ニ成ラセラレ、隅田川堤ヲ暫時御逍遙ノ後、華族會館ニ御立寄り^御盃餐アリ。歸途上野公園ヲ御遊歩、午後五時五分還宮アラセラル。是ノ歳、五月二十六日ニモ亦此ノ事アリ。明宮勅務日記・官報

麻疹ニ罹ラセラル

五日、輕症ノ麻疹ニ罹ラセラレ、御發熱三十八度アリ。後、數日ニシテ御快癒、十六日ヨリ學習院ニ通學アラセラル。明宮御用掛日記・官報・高辻修長日記・明宮勅務日記・官報・實愛日記

十日、海軍中將男爵赤松則良ニ銀瓶壹個ヲ賜フ。過般乘馬壹頭ヲ獻ゼシニ因ル。恩賜録

圖書寮

綱曳ノ曳ハ引カ

運動會御覽

二十一日、午後一時、學習院長子爵三浦梧樓。幹事工藤一記。豫備科教員一同竝ビニ豫備科生徒ヲ召シ、御殿内廣芝ニ於テ生徒等ノ綱曳。旗取。其ノ他遊戲ヲ御覽、又近衛軍樂隊ヲ召シテ數曲ヲ演奏セシメラル。明宮勅務日記・官報

競馬御覽

五月四日、午前八時御出門、學習院ノ運動會ニ成ラセラレ、諸技ヲ御覽アリ。金五拾圓ヲ賜フ。歸途、參内アリテ午後四時三十分還宮アラセラル。明宮御用掛日記・明宮勅務日記六日、靖國神社境内ニ於テ有志競馬開催中ニヨリ之ヲ御觀覽アリ。更ニ八日再ビ成ラセラル。共ニ御興勢カラ

槓拍トアムニハ非ヤ再調葉奈木ノ

明治二十二年五月

二二

御乘馬練習

ズ。尋イデ十二日ニハ上野ニ於ケル共同競馬會場ニ成ラ
 セラレ競馬數番ヲ御覽アリ。其ノ後、八月二十六日ニモ
 上野競馬會場ニ臨ミ給ヒ、競馬ヲ始メ餘興ノ母衣引等ヲ
 觀覽アラセラル。以テ乘馬ノ趣味深ク涉ラセラルルヲ拜
 スベシ。抑、儲君御乘馬ノ事既ニ謹述セシ處ナリト雖モ、
 其ノ後益々練習ヲ勵マセラレ、概ネ平日ハ御朝饗前必ズ
 御シ給ヒ、或ハ參内ニ當リ特ニ御乘馬ニテ成ラセ給フ事
 少カラズ。今御始乘以來本年度ニ至ル御乘馬回数ノ概算
 フ録シ奉レバ左ノ如シ。

明宮勅務日記・官報・御
 乘馬回数調へ主馬寮編

明治十九年

五十回

圖書寮

有栖川宮邸
御立寄

學校御見學

同 廿年	百五回
同 廿一年	卅五回
同 廿二年	百廿一回


備考 右表中、二十一年度ノ回数極メテ少キハ長
 期ニ亘ル御達例ニ基ツクモノナリ。

七日、學習院ヨリノ歸途、有栖川宮邸ヲ過訪アラセラ
 ル。此ノ後、御立寄ノ事一兩回アリ。 報官

二十一日、學習院ヨリノ歸途、駒場ナル東京農林學校
 ニ御立寄、獸醫科各教室ヲ御巡覽、尋イデ生徒ノ運動ヲ
 御覽アリ。夕景還宮アラセラル。 明宮勅務日記・高
 辻修長日記・官報

明治二十二年五月

二三

挿柏・トアムモ
 ニハ非ヤル再調
 葉奈水ノ


二十三日、元、側近ニ奉仕セル伊達宗城、其ノ父宗紀ガ百歳ノ時ニ揮毫セル壹葉ヲ獻ズ。明宮御殿 諸屬日記

六月四日、學習院教授丸尾錦作ヲ明宮御用掛ト爲ス。

明宮御用掛日記・高辻修長日記・總務課進退録・官報

九日、午前十時御出門、芝離宮ニ成ラセラレ、歸途公

爵毛利元徳邸ニ立寄ラセ給ヒ、午後四時五分還宮アラセ

ラル。高辻修長日記・官報

十日、熾仁親王、第四師團兵營ニ於テ飼養セル鹿二頭ヲ進ゼラル。仍リテ之ヲ南豊島第一御料地ニ飼養セシム。

明宮御用掛日記

圖書寮

中山孝磨邸御立寄

皇后花御殿行啓

十六日、午前十時御出門、角管村ナル華龍園ニ成ラセラル。御盡餐後、侯爵中山孝磨邸ヲ過ギ松旭齋天一ノ演ズル手品ヲ御覽アリテ還宮アラセラル。明宮勤務日記・官報・高辻修長日記

二十日、皇后、青山御所ヨリ還啓ノ途、花御殿ニ御立寄アラセラル。儲君、御車寄ニテ迎へ給ヒ、御座ノ間ニ於テ謁セラレ、種々御歡談ノ後、御學友等ニ親シク號令シテ柔軟體操等ヲ行ハシメ、或ハ自ラ馬ヲ御シ台覽ニ供シ給フ。皇后、午後六時還啓アラセラル。是ノ後、七月十一日ニモ皇后再度ノ行啓アリ。御座ノ間ニ於テ暫時御歡談ノ後、御學問所ニテ、讀書。作文。算術等ノ復習ヲ

摺拍 トアム
ニハ非ヤル再調
葉奈木

横須賀造船所・軍艦淺間御見學

御覽ニ供シ給フ。其ノ他、自ラ號令アリテ御學友ノ柔軟體操ヲ台覽ニ供セラルル等先ノ如シ。皇后、至極御満足ニ思召シ午後四時五十分還啓アラセラレタリ。
明宮勅務日記・皇太后官職日記・高辻修長日記・官報

七月四日、午前七時十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニ御搭乘、十時三十分横須賀停車場ニ御下車、直ニ端艇ニ乗ジ横須賀造船所ニ著カセラル。暫時御休憩ノ後、船渠。諸工場。潜水器等ヲ御巡覽、尋イデ横須賀鎮守府ニ御立寄、^{海軍}盤餐ノ後再ビ端艇ニテ軍艦淺間ニ到リ、備砲ノ運轉術。水雷火等ヲ御見學アリ。午後二時五十分横須賀

圖書寮

陸軍幼年學校卒業式ニ御臨場

卒業證書ヲ受ケテセラル

發ニテ五時四十分還宮アラセラル。
明宮勅務日記・官報・高辻修長日記

六日、陸軍幼年學校ニ於テ卒業證書授與式ヲ行フヲ以テ午前八時御出門、同校ニ成ラセラレ、優等卒業生菅野尙一ノ輿地學、同森本瀧一ノ植物學ニ關スル講演ヲ御聽取後、式場ニ臨マセラレ、式畢リテ還宮アラセラル。
官報

八日、御學友毛利元智、願ノ如ク免ゼラル。仍リテ雙眼鏡壹個ヲ賜フ。
明宮御殿請願日記
總務課遺退錄

十日、學習院ニ於テ卒業證書授與式ヲ舉行セルヲ以テ式ニ臨ミ、諸生徒ト同ジク豫備科第五級卒業證書ヲ受ケサセラレ、歸途參内、卒業ノ旨ヲ奏啓アラセラル。天皇。

横拍 トアムモ
ニハ非ヤル再誤
葉奈木ノ子

湯本武比古
ニ留學ヲ命
ズ

皇后、軍需並ビニ置物等ヲ賜ヒテ之ヲ賞セラレ。明宮御
記・高辻修長日記・
明宮勳務日記・官報

十三日、學習院教授湯本武比古、願ニ依リ本官ヲ免ジ、
更ニ明宮御用掛ト爲シ、皇族ニ關スル教育學並ビニ其ノ
方法ヲ研究セシムル爲、往返ノ日數ヲ除キ滿三ケ年獨逸
國ニ留學ヲ命ズ。明宮御股附屬日記・
官報・總務課進退録

興津ニ御遊
書

二十日、午前五時三十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車
ニテ興津ニ成ラセラル。發車ニ先ダテ天皇。皇后。皇太
后ノ御使ヲ始メ、奉送ノ宮内勅奏任官。華族其ノ他ニ謁
ヲ賜フ事先例ノ如シ。十一時五十五分興津停車場ニ御著、

圖書寮

清見寺ニ御
遊

御遊

夫ヨリ人力車ニテ午後零時五分名刺巨巖山清見寺ニ安著
アラセラル。御少憩ノ後、靜岡縣知事時任爲基以下ニ謁
ヲ賜フ。三時ヨリ和服ニテ海岸ヲ遊歩シ給フ事一時間餘
ニシテ御歸還、尋イデ御轡ヲ奉リテ天機ヲ候ヒ、併セテ
安著ヲ奏シ給フ。是ヨリ暑ヲ避ケサセラルル事四週間ニ
及ブ。但シ八月六日ヨリ十三日迄塔ヶ島離宮ニ遊ビテ、
十四日再ビ清見寺ニ御歸還アリ。爾後、還宮迄此ノ地ニ
淹留アラセラル。
御滞在中ハ暑中休暇ニモ拘ラズ、日曜ヲ除キ日々午前
七時ヨリ二時間乃至三時間ヲ御學習ニ當テサセラレ、學

植拍トアルモ
ニハ非ヤリ再調
葉奈木

始メテ海水
浴ヲ行ハセ
ラル

軍艦天城御
見學

習院教授丸尾錦作ヲシテ之ニ奉仕セシム。午後ハ概ネ海
水浴ヲ主トセララル。抑、海水浴ハ始メテ試ミサセ給フ處
ニシテ約十分間位ヲ限リトシ、天候悪シキ日又ハ風波高
キ時ヲ除キ日々一回行ハセラレ、時ニハ朝夕二回行ヒ給
フ事アリ。此ノ外八月二日ニハ午後ヨリ清水港ニ寄港セ
ル軍艦天城ヲ端艇ニテ訪ハセ給ヒ、艦内ノ裝備ヲ始メ乗
員ノ諸作業等ヲ御見學ノ後、水兵ノ水泳ヲ始メ諸競技ニ
時ヲ移シ給フ。雨天ノ際ハ清見寺ノ什寶等ヲ御覽アラセ
ラレ、一々住職ニ説明ヲ爲サシメ、其ノ由來等ニ關シ親
シク御質問等アリ。抑、當寺ハ求王院清見興國禪寺ト稱

圖書寮

シ、清見寺トハ其ノ俗稱タリ。往時清見ヶ關設置ノ頃鎮
護ノ爲ニ建立セラレシモノト稱セララル。中世關聖禪師之
ヲ再興セリト雖モ、猶ホ屢々兵燹ニ罹リ堂塔伽藍ノ荒廢
其ノ極ニ達セシガ、近世徳川家康此ノ地ニ遊ブ事度アル
ニ及ビ殿堂ヲ修築セシメ寺田ヲ寄進シ漸ク見ルベキ處ア
リ。加フルニ其ノ地ハ舊清見ヶ關ノ址ニシテ清見潟。田
子浦。三保ノ松原ヲ瞰望シ、巍々タル富士。愛鷹ノ靈山
ヲ顧阿ニ備ヘ、東海道屈指ノ勝地タリ。サレバ明治二年
天皇東幸ニ當リ此ノ寺ニ行在アラセラレ、尋イデ十一年
御巡幸ニ際シ再度ノ命ヲ忝フセリ。蓋シ儲君御滞在の特

植木トアルモ
ニハ非ヤル再調
葉奈木ノ
再調

ニ御感深キモノアラセラレタルカ、時ニ順ヒ事ニ應ジ屢
 屢御書ヲ天皇。皇后。皇太后ニ奉ラセラル。又日曜ハ御
 學業無キヲ以テ雨天ニアラザレバ早朝ヨリ近傍著名ノ地
 ニ出デ給フ。就中七月二十八日ノ如キハ有度郡不二見村
 ナル龍華寺ニ成ラセラレ、風光ヲ賞シ給フ事暫時、尋イ
 デ三保ノ松原等ヲ逍遙アラセラル。

次ニ塔ヶ島離宮ニ御滞在中ハ蘆湖畔ニ臨メル箱根權現
 ヲ始メ、近郊御遊歩。船遊等ノ事アリ、或ハ村民ガ御慰
 ニ供シ奉レル燈籠流ニ時ヲ移サセ給フタアリ。斯クシテ
 一週間ヲ過サセラレ、再ビ清見寺ニ還リ給フ。

圖書寮

始メテ御手
植樹ヲ行ハ
セラル

還宮

隨員

御歸京ニ先ダテ清見寺住職ノ請ヲ聽シ、境内ニ楨。柏。
 百日紅ヲ親シク植エサセラレ以テ記念ト爲サシム。御手
 植樹ノ事蓋シ此處ニ始マル。八月十八日御豫定ノ如ク午
 前十時三十分寺ヲ後ニシ、諸員奉送裡ニ御歸京アラセラ
 ル。其ノ行略、往時ノ如シ。午後五時五十三分御機嫌克
 ク花御殿ニ還宮、翌十九日天皇。皇后。皇太后ニ謁シ、
 奏啓アラセラルル處アリ。御土産品等ノ進獻亦恒ノ如シ。
 猶ホ御轉地ニ當リ隨行ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ、明
 宮御教養主任子爵曾我祐準。明宮勤務長候爵中山孝麿。
 明宮御用掛子爵高辻修長。明宮御用掛學習院教授丸尾錦

植樹トアルモ
ニハ非サルヲ再調
落葉奈水

ニ御感深キモノアラセラルタルカ、時ニ順ヒ事ニ應ジ屢
 屢御書ヲ天皇。皇后。皇太后ニ奉ラセラル。又日曜ハ御
 學業無キヲ以テ雨天ニアラザレバ早朝ヨリ近傍著名ノ地
 ニ出デ給フ。就中七月二十八日ノ如キハ有度郡不二見村
 ナル龍華寺ニ成ラセラレ、風光ヲ賞シ給フ事暫時、尋イ
 デ三保ノ松原等ヲ逍遙アラセラル。
 次ニ塔ヶ島離宮ニ御滞在中ハ蘆湖畔ニ臨メル箱根禮現
 ヲ始メ、近郊御遊歩。船遊等ノ事アリ、或ハ村民ガ御慰
 ニ供シ奉レル燈籠流ニ時ヲ移サセ給フタアリ。斯クシテ
 一週間ヲ過サセラレ、再ビ清見寺ニ還リ給フ。

始メテ御手
 植樹ヲ行ハ
 セラル

還宮

隨員

御歸京ニ先ダテ清見寺住職ノ請ヲ聽シ、境内ニ楨。柏。
 百日紅ヲ親シク植エサセラレ以テ記念ト爲サシム。御手
 植樹ノ事蓋シ此處ニ始マル。八月十八日御豫定ノ如ク午
 前十時三十分寺ヲ後ニシ、諸員奉送裡ニ御歸京アラセラ
 ル。其ノ行略、往時ノ如シ。午後五時五十三分御機嫌克
 ク花御殿ニ還宮、翌十九日天皇。皇后。皇太后ニ謁シ、
 奏啓アラセラルル處アリ。御土産品等ノ進獻亦恒ノ如シ。
 猶ホ御轉地ニ當リ隨行ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ、明
 宮御教養主任子爵曾我祐準。明宮勤務長候爵中山孝麿。
 明宮御用掛子爵高辻修長。明宮御用掛學習院教授丸尾錦

ニ御感深キモノアラセラレタルカ、時ニ順ヒ事ニ應ジ屢
 屢御書ヲ天皇。皇后。皇太后ニ奉ラセラル。又日曜ハ御
 學業無キヲ以テ雨天ニアラザレバ早朝ヨリ近傍著名ノ地
 ニ出デ給フ。就中七月二十八日ノ如キハ有度郡不二見村
 ナル龍華寺ニ成ラセラレ、風光ヲ賞シ給フ事暫時、尋イ
 デ三保ノ松原等ヲ逍遙アラセラル。
 次ニ塔ヶ島離宮ニ御滞在中ハ蘆湖畔ニ臨メル箱根權現
 ヲ始メ、近郊御遊歩。船遊等ノ事アリ、或ハ村民ガ御慰
 ニ供シ奉レル燈籠流ニ時ヲ移サセ給フタアリ。斯クシテ
 一週間ヲ過サセラレ、再ビ清見寺ニ還リ給フ。

圖書寮

始メテ御手
植樹ヲ行ハ
セラル

還宮

隨員

御歸京ニ先ダテ清見寺住職ノ請ヲ聽シ、境内ニ楨。柏。
 百日紅ヲ親シク植エサセラレ以テ記念ト爲サシム。御手
 植樹ノ事蓋シ此處ニ始マル。八月十八日御豫定ノ如ク午
 前十時三十分寺ヲ後ニシ、諸員奉送裡ニ御歸京アラセラ
 ル。其ノ行略、往時ノ如シ。午後五時五十三分御機嫌克
 ク花御殿ニ還宮、翌十九日天皇。皇后。皇太后ニ謁シ、
 奏啓アラセラルル處アリ。御土産品等ノ進獻亦恒ノ如シ。
 猶ホ御轉地ニ當リ隨行ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ、明
 宮御教養主任子爵會我祐準。明宮勤務長候爵中山孝麿。
 明宮御用掛子爵高辻修長。明宮御用掛學習院教授丸尾錦

植樹トアルモ 万一 植樹
 ニハ非サルヤ 再調ナラシ
 葉奈木ノ子
 要調査

伏見宮邸御立寄

作。明宮勤務竹屋光富。同勸解由小路資承。同子爵大久保忠順。同子爵大宮以季。同子爵小笠原長育。同子爵京極高德。嘉仁親王殿下附武官長瀬良行。同香宗我部順。同公爵鷹司溥通。侍醫原田豊。侍醫局勤務加藤照磨。御學友高崎益彦。同一柳剛等ナリ。明宮勤務日記・明宮御用掛日記・官報・高辻修長日記・行啓録・恩賜録・嵯峨實愛日記

九月一日、延遠館ヨリノ歸途、伏見宮邸ヲ過リテ後還宮アラセラル。高辻修長日記

五日、午後二時御出門、主馬寮ニ御立寄、和蘭國ヨリ購入ノ種牛ヲ御覽、夫ヨリ内庭ヲ經テ青山御所ニ參候、

圖書寮

昌子内親王御訪問
陸軍教導團御見學

皇太后ニ謁セラレ、五時十分還宮アラセラル。明宮勤務日記

二十二日、午前十時三十分御出門、中山慶子邸ニ成ラセラレ、御昼餐後參内、午後四時三十五分還宮アラセラレ

明宮勤務日記

二十五日、常宮御殿ニ成ラセラレ、御妹昌子内親王ニ御對面ノ後、還宮アラセラル。高辻修長日記

十月六日、午前八時御出門、國府臺ナル陸軍教導團ニ成ラセラレ、歩兵大隊運動。砲兵假設敵射撃。騎兵障礙飛越等ヲ御見學、士官集會所ニ於テ^御昼餐ノ後、將校一同ニ謁ヲ賜フ。夫ヨリ病院各室ヲ御巡回、患者ニ親シク御

言葉アリ。御巡覽終リテ再ビ野外ニ出デ給ヒ、工兵架橋
 作業並ビニ水雷火等ヲ御見學ノ後、午後三時二十五分還
 宮アラセラル。御教養主任子爵曾我祐準。明宮勤務長侯
 爵中山孝麿ヲ始メトシテ勤務。御附武官等隨行ス。明宮
 勤務

日記・高辻
 修長日記

十日、御庭ニ於テ始メテ空砲發火ヲ親シク試ミサセラ
 ル。爾後、御日課タリ。明宮御殿詰馬日記。
 高辻修長日記

是ノ日、同級生男爵徳川義想ヲ御學友ト爲ス。明宮御
 用掛日

馬録・恩

十七日、午後一時御出門、上野公園ニ於テ開催中ナル

圖書寮

電氣燈點火

教育品展覽會並ビニ園藝共進會ニ成ラセラレ、會場御巡
 覽アリ。午後三時二十分還宮アラセラル。明宮勤務日記。
 高辻修長日記

報官

二十七日、午前十時御出門、王子製紙場ニ成ラセラル。

途中飛鳥山ヲ御遊歩、郊外晚秋ノ景ヲ御觀賞アリ。御著
 後、工場等御巡覽ノ事例ノ如シ。歸途參内、午後四時還

宮アラセラル。明宮勤務日記。
 高辻修長日記

二十八日、從來、御殿内ニ於テ燈火ニ用ヒラレタル蠟
 燭ヲ廢シ、始メテ電氣燈ヲ以テ之ニ代フ。因ニ帝國ニ於
 ケル其ノ使用ハ明治二十年東京電燈會社ノ點燈開始ニ基

ヅクト雖モ、當時猶ホ危險ヲ慮リテ普及スルニ至ラザリ
キ。サレバ今次、花御殿ニ於ケル装置ハ蓋シ世ニ影響ス
ル處尠カラザリシガ如シ。明宮御殿
詰馬日記

三十日、陸軍歩兵少佐岡崎生三ヲ嘉仁親王殿下附ト爲
ス。明宮御殿
詰馬日記

3201 217

64047

3201 218

